

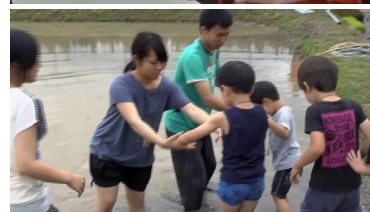
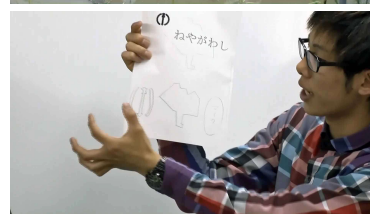
NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報
第98号(201709)
発行 竹田 幸男



第8回ビデオ作品発表会
新井さん「南 保次氏の挑戦」より



例会の窓

■平成29年8月例会

日時：8月9日(水) 13:30～

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：小笠原 妹尾 竹田 谷

欠席者：4名(50音順・敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報随想筆者 妹尾さん

2. 協議事項

(1) 今年の第2回撮影会

日時：11月16日決定 行き先は後で決定。

(2) 7/23(日) 合同例会の報告

- ・大阪アマチュア映像祭出品作決定
映像寝屋川の2作品決定

(3) 11月3日の市民文化祭

- ・出品作品は9月例会提出。一人1作10分以内の作品。

(4) 第11回寝屋川映像フェスティバル

- ・来年5月13日(日) 10分以内の作品。
・今回からは著作権を守った作品を。今年中に作品完成を。

(5) プレミア研究会

- ・8/3(木) 12:00~子供室で実施。参加6人
今回はファイルの処理、ファイルの場所の確認などをしっかり理解して頂くことを重点にした。成果はあったと思う。

3. 映写・研究発表

3.1 会員持参作品の映写

(1) 小笠原さん 「明石海峡大橋」 10分

- ・素材の状態、完成品を楽しみにしています。

(2) 「浜松 井伊谷の旅」 10分

- ・同窓会の旅行記から同窓会部分を外した作品。

(3) 竹田さん 「楽友会 バス旅行」 15分32秒

- ・団体活動記録作品のサンプル。このような行事物は最初のほうは丁寧に描写し、後に行くほど省略する方がいい(だんだん見飽きてくるから)という作り方のサンプルとして公開。

(4) 妹尾さん 「金沢城公園 石垣の魅力」 10分

- ・天気もよく、きれいに撮影されているが、ほとんどのカットが、パンかズームになっているので、固定ショットの絵が基本であることを念頭に撮影・編集されることを期待します。

3.2 参考映像

- ・「井伊直虎の街」(他から引用したビデオ)

アマチュアの作品と思われるが、撮影の仕方、ナレーションなどは大いに参考になる。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等(省略)





随想 「栗の木」

妹尾 哲男

幼少時の懐かしい思い出の一つは生家の裏庭に植えられた栗の木に登って遊んだことだ。親が見たら危険だといって止めたと思うが、暇に任せて木登りを楽しんだ。その栗の木は私の誕生記念に父親が植樹してくれたものである。「桃栗三年柿八年」と言われるように栗の木は成長が早く、小学低学年頃になるとかなりの幹回りに成長し枝ぶりや樹皮が子供の木登りに好都合であった。木登りといっても、せいぜい2mまでの高さであるが、目線が普段と異なり視界が広がって子供の目には新鮮であった。

秋には「丹波栗」特有の大きな^{いがぐり}毬栗が成長し、十分に成熟すると殻がはじけて茶色の大きな実が落ちてくる。朝起きて拾い集め、母の手で皮をむき^{いが}渋皮を取り除いて栗ごはんなどにして賞味した。毬栗がはじけないで毬をつけたまま落ちてくることがある。外側の毬を足で踏んで中から栗の実を取り出す際、毬の鋭いトゲが手足に刺さり痛い思いもした。その後も栗の木は成長を続け二階の屋根よりも高くなり、戦時中の食糧不足の際には貴重であった。

次の栗の記憶は、旧制中学の入試に合格した記念に栗の無垢の天板の学習机を注文して作ってくれたことである。机について真剣に勉強をした記憶は皆無で、親の期待に応えたとは言えないが、天板の栗独特の木肌、年輪が懐かしく思い出される。

木材としては栗の木は耐水性、耐久性に優れ、古くから住宅の土台として重用され、鉄道の枕木として広く使用されてきた。その他、家屋の柱、壁板、和家具、指物にも広く利用されてきた。

進学・就職のため故郷を離れてからは、たまに栗ご飯を食べるくらいで栗の木のことはずっかり忘れていた。

昨年8月、青森をたずね縄文時代の暮らしが見えるとうたわれる^{さんないまるやま}「三内丸山遺跡」を訪ねた際、ボランティアガイドから「栗の木は食・住生活にとって殊の外貴重な存在であった」と繰り返し説明され、栗の木に対する愛着がよみがえってきた。

三内丸山遺跡は今から約5,500年前～4,000年前の縄文時代の集落跡で、長期にわたり定住生活が営まれていた。



平成4年からの発掘調査で、竪穴住居跡、大型掘立柱建築物、墓、粘土採掘坑、ゴミ捨て場等が見つかり、集落全体の様子や当時の自然環境などが具体的にわかってきた。縄文人の手で栗の木が栽培され、品種改良が続けられたことがDNA分析により明らかになるなど、数多くの発見が縄文文化のイメージを大きく変えたといわれる。

中でも、遺跡の北西端の空に向かって聳える6本柱の巨大な大型掘立柱建物が目を引く。写真からも類推されるように、この建物は物見やぐらや祭殿に使われたなど諸説があるが想定復元された力強い姿から「遺跡のシンボル」ともいわれる。その構造は、柱穴が3個ずつ2列に配置され、柱間隔は4.2m、柱の根入れは2~2.5mで、柱穴は入念に埋め戻され固められていた。出土した柱はクリ材でその直径は103cmもあり、その根元は防腐処理のため焼き焦がされていた。このように巨大な栗の木の柱材を育て、切り倒して運びだし、製材して正確に加工・組立するにはかなり高度な測量・土木・木工技術が必要で、縄文人は当時すでに身に着けていたものと思われる。

その2か月後の10月、大阪国立国際美術館で開催された「始皇帝と兵馬俑」展を訪れ、始皇帝の絶大な権勢に驚嘆した。その会場の一隅にさりげなく展示されたパネルに目が留まった。

唐時代初期に出土した10個の花崗岩の石碑（石鼓）に刻まれた文字の拓本の紹介で、当時の狩猟をはじめとする王の暮らしぶりなど当時の豊かな国家の情景を謳った詩が「石鼓文（作原）現代語訳大意」というタイトルでパネル展示されていた。前後を省略して注目箇所を次に抜粋する。

（前略）

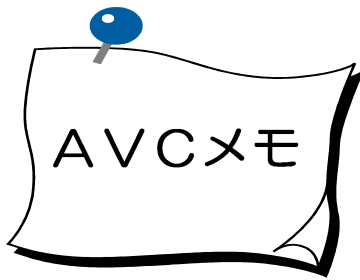
私の住まいはほんとはよく、きっちりとして大きい

よい樹 それは栗、柞さくや槭よくは抜かれてしまう

（以下略） 柞：こなら 槭：くぬぎ

紀元前500年頃の中国でも栗について「……嘉佳栗 柞槭其兌……」と記述されているように、栗は特別な木として広く認知されていたように感じた。

私の分身とも思っている栗の木が日本では縄文文化を支え、中国でもより高い評価を受けていることを知るにつけ、息子の誕生記念に栗の木を選んで植樹してくれた父親のおもいを忖度し感謝と畏敬の念を新たにしている。



「上書き保存」撲滅

竹田 幸男

あなたは、パソコンで文書を書いたり、表計算をしたりして、その結果を保存するとき、どのような操作をされていますか。手っ取り早く「上書き保存」とされていませんか。「上書き保存」は、その前に作成したファイルを引き出してきて書き加えたり、修正した物を新しいファイルとして更新することです。

似たような操作で、「名前をつけて保存」があります。初めて作ったファイルは「名前をつけて保存」しなければなりません。2回目からは「上書き保存」ができます。手軽で手っ取り早くファイル内容の更新が出来ますが、私は出来るだけ「上書き保存」をしないようにしています。

というのは、「上書き保存」にすると、パソコンは黙って仕事を終わります。本当にしっかり保存できたかな、と不安に思えます。

私は「上書き保存」でも済むところを、必ず「名前をつけて保存」を行います。そうすると「上書き保存」と違うところは、このファイルの本来の名前と、そのファイルがパソコンの中のどこに保存されるか、という階層構造が示されます。これらを確認して、そのファイルの名前と、どこに保存されるのか、ということをしっかり確認してから「OK」をクリックします。文書を作った、文章を修正したなどには、時として半日、一日かかることがあります。このような長時間の作業に比べて、ほんの少し手間をかけてやることによって、安心して作業を終わることが出来ます。そうして一生懸命に作った作業結果がどこに存在するか、という手応えを得ることがとても大事なことです。

通常、文書作成や表計算などのソフトウェアで作業して、その結果を保存する場所、たとえば、パソコンにお任せにしておけば、ほぼCドライブに保存します。Cドライブの「ユーザー」のフォルダの下の「パソコン名称（持ち主がつけた名前）」のフォルダの下の、「ドキュメント」フォルダの中です。ソフトウェアの中には、Cドライブに特定のフォルダを作って、そこへ入れるものもあります。

ソフトウェアによっては、「名前をつけて保存」が出てこないものもあります。そういうものは最初に、自分の意思でどこに作業結果をしまうのか、しっかり決めておかなければなりません。

Cドライブへ、無意識に入れてしまう危険さ、としては次のことが考えられます。たとえば、不幸にもウイルスにとりつかれたようなときは、Cドライブを完全に白紙にしてOS（ウィンドウズ）や諸々のソフトウェアを入れ直さなければなりません。

んが、そのときに苦心して作った文書や表計算データは破棄しなければなりません。またウイルスの中にはCドライブにある、苦心して作った文書や表計算に暗号を掛けて開かなくして、開くための身代金を要求するものも出てきてます。

このような損害を防ぐためにも、せっかく作ったファイルを守る意識を持ちましょう。そのような大切なデータはCドライブ以外に保存するようにしましょう。そのためにも、あなたの大切なデータが、パソコン内のどこにあるのかを常に理解しておくことがいかに大切か、そのための「上書き保存を撲滅して、名前をつけて保存する」癖をつけたいものです。 ■